

(10) キャンドルのつどい

実施形態	指導可能（自主活動でも安全指導は必要） ※団体での自主活動も可能			阿蘇の自然に 親しむ	集団行動 規律	課題克服 達成感	くわしくはこちら
提出書類	活動確認用紙 食事・教材注文票（ろうそくの注文）				◎		
必要経費	【指導依頼をした場合】 一律 5,000 円+ろうそく代 【自主活動の場合】 ろうそく代のみ ※ろうそく代 体育館・講堂 1,530 円 大研修室 1,000 円			阿蘇の文化に 親しむ	仲間づくり 協調性	自主性 創意・工夫	
概要 (セールスポイント)	ロウソクの炎を囲み、歌やレクリエーションなどを行うことで連帯感や友情を深めることができます。 研修の始めの方に実施すれば緊張をほぐし、親睦を深める効果があり、最後に実施すれば研修のまとめや自己を深く見つめる場になります。						
諸条件	場所	体育館、講堂、大研修室		対象	幼稚園児～		
	所用時間	【安全指導】 20 分 【リハーサル】 1 時間 【本番】 1.5～2 時間		人数	【体育館】 400 人程度まで 【講堂】 200 人程度まで 【大研修室】 100 人程度まで		
	時期	通年		天候	全天候実施可能		
準備するもの	青少年交流の家で貸し出し可能な物			団体に準備する物			
	・キャンドル台セット ・火の神衣装（ドレス・白衣） ・放送・音響機器 ・懐中電灯 等			【事前】 ・係の選出（展開例参照） ※必須 ※ろうそくは係になった児童・生徒のみが持ちます。 ・せりふの確認と練習 ※必須 ・2部の出し物の準備 ※自主活動の場合 【当日】 ・室内用のシューズ ※体育館の場合 ・出し物で必要なもの			
活動内容 (手順)	所用時間	項目	内容				備考
	60 分	準備・ リハーサル	【団体及び交流の家】 ①指導者への説明 ②活動の意義の確認 ③キャンドル台・シートの設置 ④リハーサル（役割の確認、せりふ、動きの練習、 1・3部の流れの確認） ※安全指導も含む				※指導依頼をした場合 ※18:00 ごろから
	20 分	安全指導	【交流の家】 ①準備について ②キャンドルの扱い方について ③片づけについて				※自主活動の場合 ※16:20 ごろから
	60 分 ～ ※2部の内容に 応じて	活動	第1部 迎え火のつどい 第2部 交歓のつどい（レクリエーション・出し物） 第3部 送り火のつどい				※詳細は別紙【展開例】
20 分	後片付け	【団体および交流の家】 ①キャンドル台の収納 ②シートの掃除					

その他（各団体の引率者の皆様へ）

(1) 交流の家職員・指導員への指導依頼をすることができます。

指導内容は、リハーサル指導、1・3部補助、2部のレクリエーション進行です。

指導料は一律5,000円です。指導依頼をされる場合は指導依頼用紙に必要事項を記入しご提出ください。

※利用の2か月前まで

※キャンドルの集いの準備と片付けは、各団体で行います。

(2) 自主活動でされる団体様には、活動前に交流の家職員による安全指導（会場の準備・片づけの仕方、分火・静火の仕方など）を行います。

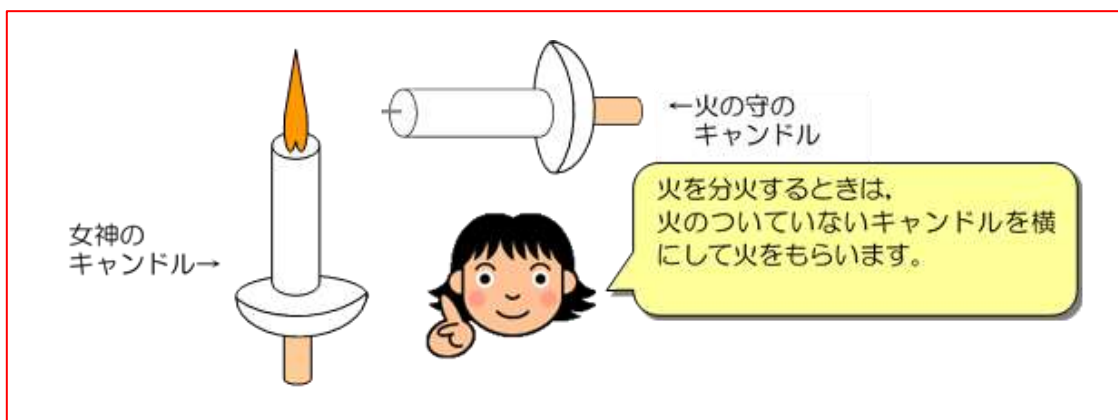
(3) 2部のレクリエーションのみの指導依頼も可能です。ご相談ください。

(4) 指導依頼される場合も自主活動される場合も、係の選出とセリフの確認と練習を行っておいてください。

(5) 係の役割分担

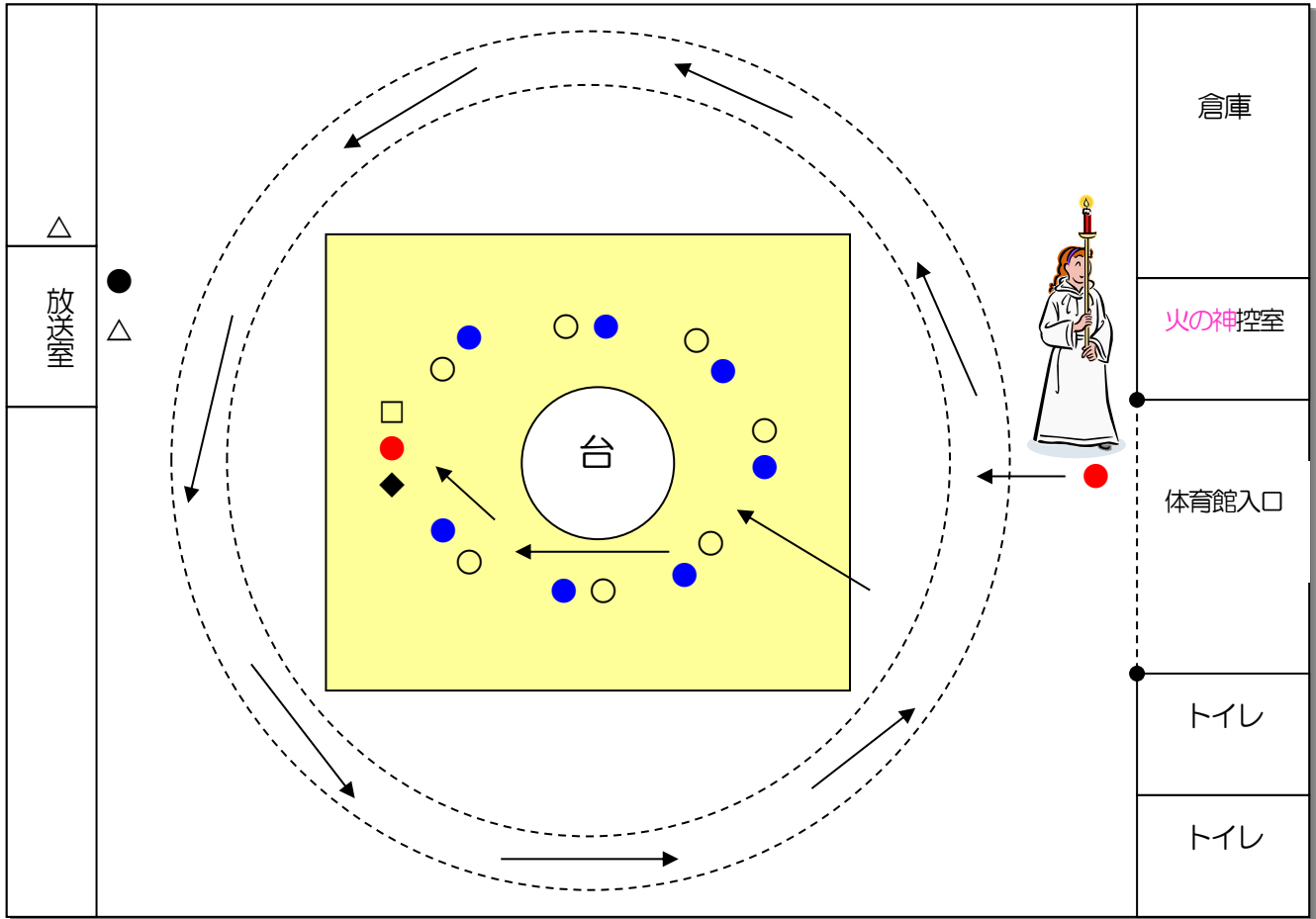
係名（人数）	第1部	第3部	備考
火の神（1～2）	入場・分火	静火・退場	
火の長（1）	はじめの言葉	まとめの言葉	指導者からの選出が、一般的です。
火の司（1）	ナレーター		
火の守（5～10）※	受火・献火		火の守と誓詞係は同じ人数が一般的です。 例) 班から1名ずつなど
誓詞係（5～10）※	誓いの言葉		
献詩係（1）		詩の朗読	
音響係・照明係（各1）	BGMの調整・せりふにライトを当てる		
火の神補助（1）	火の神登壇時の補助（火の神が2人の場合は不要）		

(6) 分火の際の安全指導は、以下のように指導をしてください。

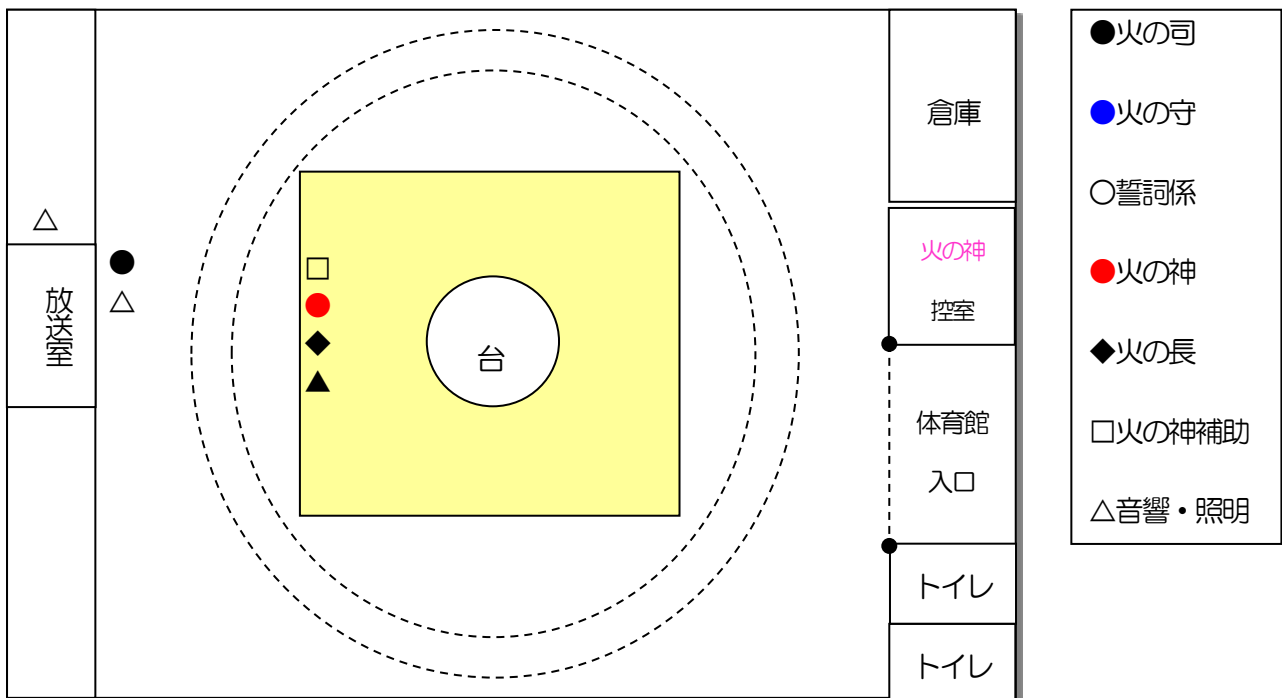


(7) 会場図

【第1部】



【第3部】



【展開例】

(1) 第1部 迎え火のつどい ※静かな雰囲気の中で行う

全体の流れ	役割分担	せりふ (例)
①ナレーション	火の司	<p>火の司 「ここ、阿蘇の地には、火山や草原、水源など雄大な自然が広がり、その自然は私たち人間にたくさんの恵みを与えてくれています。大昔から、阿蘇に住む人たちは、阿蘇の山々を『神様の住む山』、火山から生まれる火を『御神火』として大切にしてきました。この豊かで美しい自然と生きている大地に囲まれた、ここ、阿蘇青少年交流の家も、また一日が終わろうとしています。自らの向上を願い、お互いの友情を深めようとして集まった〇〇〇(団体・学校名等)のみなさん、これよりキャンドルの集いを始めます。まもなく、『御神火』をたずさえた火の神の入場です。みんなで静かに迎えましょう」</p>
②火の神の入場	火の神	○火の神がキャンドルをもって、入口から入場する
③はじめの言葉	火の司 火の長	<p>火の司 「ここで、火の長よりお言葉をいただきます」</p> <p>火の長 「(例) …いま、ここに皆さんの友情と団結のために御神火を迎えます。私たちは、この研修に参加することにより仲間としてのきずなをさらに深めることができました。ともすれば、自己の生活を見失いがちな私たちは、この研修によって、自ら考え自ら行うことの意義を身をもって体得しました。規則正しい生活、自主的な生活体験は自己をあらためて見直させてくれるとともに、多くの若き仲間のたくましさや、すばらしい行動を教えてくださいました。この聖なる御神火を囲んでのつどいが、一人一人の心の奥深く、いつまでも美しく、楽しい思い出となるよう祈りつつこの集いを開きます。」</p>
④分火 火の神から火の守へキャンドルの火を分火する。 ↓ 全ての火の守に分火を終えたら、火の神は手に持ったキャンドルをキャンドル台の最上部に置く。	火の守 火の神	<p>火の司 「それでは、火の神より火の守へ『御神火』を分火いたします。」</p> <p>火の神 ①あなたには、すばらしい「出会いの火」をあげましょう。</p> <p>火の守① 「私は出会いの火をいただきました。」</p> <p>火の神 ②あなたには、あなたと私の「友情の火」をあげましょう。</p> <p>火の守② 「私は出会いの火をいただきました。」</p> <p>火の神 ③あなたには、「仲間づくりの火」をあげましょう。 ～同様こ火の守は火の神の言葉を繰り返す～</p> <p>④あなたには、みんなへの「感謝の火」をあげましょう。</p> <p>⑤あなたには、生きていく「英知と力の火」をあげましょう。</p> <p>⑥あなたには、「愛と奉仕の火」をあげましょう。</p> <p>⑦あなたには、困難を克服する「勇気の火」をあげましょう。</p> <p>⑧あなたには、「調和と創造の火」をあげましょう。</p> <p>⑨あなたには、「努力と向上の火」をあげましょう。</p>

「〇〇の火」はみなさんの大切にしている言葉などに変更してもかまいません。


<p>⑤誓いの言葉</p>	<p>誓詞係</p>	<p>火の司 「ここで、誓詞係のみなさんから誓いの言葉をお願いします」</p> <p>誓詞係① 「私たちは、この研修を通じて〇〇〇〇することを誓います」 団体名、組（科） 氏名 〇〇 〇〇</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>誓詞係①～⑨が一人ずつ誓いの言葉を言う。</p> </div>
<p>⑥献火</p> <p>火の司のナレーターに合わせて、火の守がキャンドルに順番に火をつけていく。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>最後の火の守がキャンドルを置き終わったら、火の守全員でキャンドル台の残りのキャンドルに火をつけていく。</p>	<p>火の守</p>	<p>火の司 「それでは、火の守によるキャンドル台への献火をおこないます」</p> <p>「最初のキャンドルに明かりが灯されます。今宵がすばらしい出会いの時にありますように。」</p> <p>「2番目のキャンドルに明かりが灯されます。みなさんの友情を温め合う時にありますように。」</p> <p>「3番目のキャンドルに明かりが灯されます。友だちの輪が大きく広がりますように。」</p> <p>「4番目のキャンドルに明かりが灯されます。家族に、友に、そしてまわりの人たちへの感謝の気持ちが深まりますように。」</p> <p>「5番目のキャンドルに明かりが灯されます。力の限り誠実に生きていくことができますように。」</p> <p>「6番目のキャンドルに明かりが灯されます。限りない愛と奉仕の心がめばえますように。」</p> <p>「7番目のキャンドルに明かりが灯されます。困難を克服する勇気がわきますように。」</p> <p>「8番目のキャンドルに明かりが灯されます。明日を切り開くために考え抜く力が身につきますように。」</p> <p>「9番目のキャンドルに明かりが灯されます。目標をもってひたむきに頑張っていけますように。」・・・</p> <p>(最後のキャンドルに明かりが灯されたのを確認したら)</p> <p>「最後のキャンドルに明かりが灯されました。今日の想いがみなさんの胸に輝く炎としていつまでも燃え続けますように。」</p>
<p>⑦退場</p>	<p>火の長 火の神 火の守 誓詞係</p>	<p>火の司 「ここで、火の長、火の神、火の守、誓詞係が退場します」</p> <p>(全員退場したのを確認したら)</p> <p>「みなさんの協力により、中央のキャンドル台に「御神火」を迎えることができました。これから、この火を囲んでの楽しい交歓のつどいに入っていきます。」</p>

(2) 第2部 交歓のつどい (レクリエーション・出し物) ※明るく楽しい雰囲気で行う

各クラス、チームの出し物やレクリエーションなど行う。

- ※ 指導依頼をされる場合は、交流の家職員がレクリエーションを行います。
- ※ 活動中は、シートの上には乗らないように注意しましょう。
- ※ 第2部終了後、係の人は第3部の準備・配置、他の人は第1部の隊形に並ぶ。

(3) 第3部 送り火のつどい ※静かな雰囲気の中で行う

全体の流れ	役割分担	せりふ (例)
①献詩	献詩係	<p>火の司 「まず、はじめに献詩係より献詩をお願いします」</p> <p>献詩係(例) あたりまえのことを あたりまえにすることができ あたりまえのことに 感謝できる人になりたい あたりまえのことを あたりまえにやることが おろそかになってはいないだろうか あたりまえのことに 感謝できなくて 狂った刺激のみ 追ってはいないだろうか 人間は人間らしくあるという あたりまえのことを 大切にしたい私たちは この研修を通じて〇〇〇〇することを誓います」</p> <p style="text-align: right;">団体名, 組(科) 氏名 〇〇 〇〇</p>
②静火	火の神	<p>火の司 「続いて火の神がキャンドル台の静火をおこないます」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>火の神が、キャンドル台の火を下から順番に1つずつ消していく。</p> </div> 
③まとめの言葉	火の長	<p>火の司 「ここで、火の長より言葉をお願いします」</p> <p>火の長 (研修のまとめになるようなお話をする)</p>
④退場	火の長 献詩係	<p>火の司 「火の長と火の神と献詩係が退場します。 みなさん静かに送りましょう。」</p>

キャンドルのつどいの指導

1 事前打ち合わせ

- 流れの説明（活動プログラムを参考に） ・ 指導依頼をするかどうか確認
- 日時、会場の確認（調整で変更になる場合があることを伝えておく）
- 参加人数
- 係決め、セリフの練習をお願いする（火の長は校長先生が望ましい、セリフは学校や学年の目標などをふまえて変更してもよい、セリフは暗記をしなくてもよいが一通り目を通しておく）

2 当日の流れ

①代表者会議で担当者と打合せ

- 係の確認（すべての係がいるか、それぞれの人数）
- セリフを覚えているか（覚えていない場合はライト係を）
- 指導依頼ありの場合、2部の内容の希望を聞く。（動きあり？校歌を歌う？）

②準備物

【事務室から】

- 火の神の衣装 ・ ろうそく（補充分を売店でもらっておく） ・ ランプ（火をつけて）
- BGM用CD ・ 懐中電灯（2本） ・ 放送室の鍵 ・ 体育館倉庫の鍵 ・ シューズ

【体育館倉庫から】

- キャンドル台 ・ 階段 ・ シート ・ 火の神用のキャンドル

③リハーサル（本番開始 1 時間前）

内容	ポイント
1 かかり、担当者集合、係確認、会場準備	<p>* 係のメンバーを確認し、それぞれの係の役割を簡単に説明する。</p> <p>* 係の生徒に役割を話し、会場の準備を行う。</p> <div data-bbox="550 1527 1449 1966"><p>【係の生徒へのお話】（例）</p><ul style="list-style-type: none">• キャンドルのつどいを行う目的を考えさせる。 → 1、3 部は厳粛な雰囲気の中で自分を見つめ直す時間であるので、どんな態度で進行すればよいか考えさせる。• セリフはゆっくりと。紙をよんでもよいのでみんなに聞こえる声ではっきりと言うように。• 他の人はセリフを知らないなので、間違えても堂々と。• 係のメンバーで全体の雰囲気を作ろうという意識を持たせる。</div>

	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center; color: blue; margin: 0;">【会場準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> • シートを体育館中央に敷く • キャンドル台、階段を置く ※1番上のキャンドルが折れないよう注意 • カーテンをしめる • 火の神は衣装を着る（体育館倉庫横の部屋） • 音響係への操作を教える </div> <p>2 立ち位置を確認して、一通り通す。</p> <p>①1部</p> <p>②3部</p> <p>3 リハーサルのふりかえり</p>
<p>2 立ち位置を確認して、一通り通す。</p>	<p>*それぞれの係の最初の立ち位置を確認する。 ※覚えておくように声かけ！</p>
<p>①1部</p>	<p>*火の司（ナレーター）のセリフからスタートして、一通り通す。途中で、止めて動きや注意点を説明しながら進める。</p> <p>*照明、音響係には始まる前に説明する</p> <ul style="list-style-type: none"> • 照明係：セリフを言う人の横について、ライトを照らす。 • 音響係：セリフが始まる前「小（2）」入場・退場時「中（4）」 <p>*火の神から火の守への分火</p> <ul style="list-style-type: none"> • 同時に一礼→火の神のセリフ→火の守のキャンドルを傾けて火をもらう→火の守のセリフ→同時に一礼 <p>*火の守がキャンドル台にキャンドルを置く</p> <ul style="list-style-type: none"> • 火のついていないキャンドルを傾けて火をうつす • 上のキャンドルからつけていく • ゆっくり落ち着いて <p>*1部終了後、火の神は着替え（○）、他の人はキャンドル台と階段を倉庫前に動かすことを伝える（△）。</p>
<p>②3部</p>	<p>*火の神、火の長、献詩係、音響係は位置につく。他の人は周りで見る。（本番はキャンドル台の準備）</p> <p>*火の神の静火は、下のキャンドルから。</p>
<p>3 リハーサルのふりかえり</p>	<p>*よかったところをほめる。本番は緊張するので、ゆっくり落ち着いてセリフを言うように。間違えても大丈夫！</p> <p>*時間があれば、早送りでもう一度通し、動きを確認する。</p>

④本番

内容	ポイント
1 参加者入場	<p>*参加者は、静かに入場し、キャンドル台を囲むように大きな円をつくってもらいように、先生方をお願いする。</p> <p>*全体にキャンドルのつどいを行う目的、1部と3部は厳粛な雰囲気で行うこと等を話す。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【全体への話】(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> •キャンドルのつどいを行う目的を考えさせる。 →1、3部は厳粛な雰囲気の中で自分を見つめ直す時間、2部は楽しく友達と交流や協力をして友情を深める時間 •御神火は阿蘇五岳からとってきたもの、どんな苦労があったのだろう… •火を見つめながら、係の人たちのセリフの意味をじっくり考えてみよう。 </div> <p>*照明を落とす前に、暗くなることを予告しておく。</p>
2 1部 (25~30分)	<p>*照明を落とし、静かになったら火の司(ナレーター)スタート。</p> <p>*火の神をカーテン裏に誘導し、火の神に帯同する。 (火の神の衣装の裾に注意)</p> <p>*分火の時は、火の守につく。</p> <p>*1部が終了したら、照明を明るくし、キャンドル台と階段を動かす。</p>
3 2部 (時間に応じて)	<p>*レクリエーションを行う。</p> <p>*2部終了後、係に準備の指示を出し、キャンドル台と階段を元の場所に動かす(△)。全体に再び暗くなることを伝え、照明を落とす。</p> <p>*シートの中には入らないことを事前に注意しておく(○)。</p>
4 3部 (15分)	<p>*火の神の準備ができれば、火の司(ナレーター)スタート</p>
5 ふりかえり (5分)	<p>*火の神、火の長、献詩係退場後、照明をつけて、ふりかえり、まとめを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> •火を見つめながら、係のセリフを聞きながら、自分や友達、クラスのことを考える時間になったかどうか。 •よかったところ、考えてほしいこと、これから頑張りたいことなどを話す。 •係の人たちに感謝の拍手を!
6 片付け (15分)	<p>*係を中心に片付けを行う。</p> <p>*最後に係を集めて、感謝と称賛を!</p>